

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	有限会社 ポラリス
(ユニット名)	グループホーム イーハトープ
所在地 (県・市町村名)	諫早市有喜町151-10
記入者名 (管理者)	寺下ひとみ
記入日	平成 20年 6月23日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ぬくもり やさしさ 一人ひとりを大切に」を理念におき、利用者を尊重し、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、温かく接する事を実践している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	介護理念をホーム内に掲示し、全職員一丸となって共有して取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	季刊誌での広報、運営推進会議での介護理念の説明を行っている。3ヶ月に1回季刊誌を発行し、地域の要所に置かせて頂き、地域住民の方へもホームの理念また生活状況などを知って頂く様にしている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	管理者、一部の職員は、同じ地域に居住しており、また3名の利用者は、地元の方で知人の方が気軽に立ち寄り、面会されている状況である。玄関先には、ベンチ等を配置し、お買い物帰りでも会話が楽しめる様に配慮している。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の小学生との交流会や港祭りに積極的に参加している。自治会に加入し定例会にも参加している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	救急蘇生法の訓練を受け、利用者、近隣の方が病状急変した時に、蘇生法が行える様に心掛けている。また、在宅介護でお困りの方からの相談等を受けられる様に窓口を設けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	実際の介護を振り返り、利用者様本位の介護がなされているか、自立支援が出来ているか見直す機会を設けることで、利用者にとってより良い介護とは何かを運営者、管理者、職員で話し合い、実践している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、当ホームの運営方針、介護理念を説明した上で、どういう方が入居されて生活を送られているかを報告している。ホーム内を知って頂く事を重視している。また、地域との交流をさらに深めるよう意見交換し、実践に努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困難事例や退院時の介護度の変化などが見受けられる際、相談し、適切な判断を受けている。(要介護区分変更申請など)		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、また社会福祉協議会の担当者とも連絡を取って情報を得たり、相談が出来る状況を作っている。現在1例の成年後見人制度を利用されている方がおられる。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修会に参加し、報告書を通じて一人ひとりの職員へ伝達する機会を設けている。また、ホームにおける生活の中で虐待が起きる事のないように、管理者は、職員に周知徹底するとともに「報・連・相」を適切に行うように指導している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居契約の際、管理者より利用者や家族に対して、重要事項説明書、契約書ほか重要書類を提示しながら、わかりやすい言葉で説明している。なお、不安や疑問に思われる事等については随時、補足説明を行い、理解、納得を図っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置するとともに、電話の近くに苦情等を受け付ける行政機関の所在地、電話番号等を明記し、掲示している。万一、苦情を受けた場合は、職員会議にて職員全員で話し合うようにする。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、利用料請求額の報告と合わせて、生活状況の様子をお伝えている。、3ヶ月に1回発行の季刊誌には、写真を掲載し、日常生活の様子を紹介したものをご家族へ報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置し、投函された内容については書面で返答させて頂くとともに、玄関入り口に掲示している。外部機関への相談窓口(所在地、電話番号、受付時間等を明記したもの)も掲示している。また、重要事項説明書の中でも、家族の意見、不満、苦情を表す方法を説明している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全職員が参加する職員会議を月2回行うとともに、定例ミーティングを毎週開催することで、利用者の変化等を含め職員の意見を求め、業務内容に反映させている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ご家族が面談を希望される場合には、勤務時間の調整を行い、施設長または介護支援専門員が、直接、対応できるように努めている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の移動等がある場合は、職員の配置の工夫や交代予定の職員を早期に採用、または移動し、引継ぎが上手く行く様に努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会への積極的な参加を促し、参加後には研修報告書を作成の上、社内研修会で報告するように定めている。また、OJTの観点から職員を実践的にトレーニングするよう努めている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や、介護支援専門員連絡協議会の定例会に出席し、情報交換等を行っている。また、交換し合った内容を持ち帰り、事業所内で伝達講習を行っている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	不定期ではあるが、体育館でバドミントン等を行い、職員間の交流を図りながら汗を共に流す等のレクリエーションを中心にストレス解消に取り組んでいる		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の勤務状況を把握し、管理者からも報告を受けようとしている。また、職員とのコミュニケーションを密にし、ねぎらいや激励の言葉を掛ける様になっている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時から介護支援専門員がアセスメントを実施し、利用者から十分な聞き取りを行うことで、相互の信頼関係を築くよう努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時から、介護支援専門員や担当の介護職員が十分に聞き取りを行い、電話連絡も24時間対応で相談受付できる体制を取っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、利用者やご家族の思い、状況等を確認し改善に向けた支援の提案等を行い、信頼関係を築くように努めている。相談時にリハビリの必要性を感じた場合には、家族に説明を行い、医療機関との連絡調整のうえでリハビリ通院している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじめるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス内容について十分な説明を行い、利用者が納得してからサービスを受けて頂いている。なお、入居後も細やかな気配りとコミュニケーションを心がけ、ホームの雰囲気になじめるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員一人ひとりが、利用者の一人ひとりと生活を共に送る気持ちを持ち、日々の介護を実践している。寂しさを訴えられる時は、添い寝をしたり、利用者が望まれる事を可能な限り行っている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、生活状況の様子や本人の言葉等を伝えている。また、面会時は表情や、態度等を一緒に見て頂く事で関係を深めるように努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の思い、家族の思いを代弁する立場と成り、日頃より会話の中で伝えている。利用者や家族のよりよい関係づくりに貢献できるよう心掛けている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間は定めず、お友達などにも自由に来て頂ける雰囲気作りに努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	攻撃的な言動があったり、過干渉すぎる利用者様へ常に目配り、気配りし、仲良くして頂けるように要所要所で職員が支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	医療機関へ入院されたり、退所された方へお見舞いに行ったり、思い出の品物をお渡しするなどしている。時に応じて家族へ状況確認させて頂くことで、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時また認定更新時には、アセスメントを実施し、利用者や家族の意向に沿って、定例ミーティングなどで検討を重ねている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時また入居後も今までの生活を振り返り、日常の対話の中で生活歴等を教えて頂いている。例えば、主婦を長年されていた方は、職員と共の一緒に参加して頂いている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	スケジュールは特に作成せず、一人ひとりの意見を尊重し、また体調を考慮し、何をしたいかで活動内容を決め支援している。毎日、健康チェックを行い記録を残している。定期受診時は、日頃のデーターを持参し診察を受け、診察内容、処方内容等受診ノートに記録し全職員が把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	十分な課題分析を行い、介護計画を介護支援専門員が提示し、家族、職員より幅広い意見やアイデアを取り入れ計画書を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	更新時や状態悪化時には再アセスメントを実施し、新しい課題に対応したサービス内容を検討している。利用者様、家族、(医療)関係者との話し合いも重視し、介護計画の改善に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録をとり、変化を見逃さないように心掛けている。行動、言動に関するこの個人記録を介護者が共有し、よりよい実践につなげるように努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時または外泊時、希望に応じて送迎や付き添いを行っている。家族が宿泊を希望される際は、食事や寝具などの提供も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の行事(敬老会等)に招待されたり、ホームの行事にボランティアの参加があり、協力し合いながら支援している。消防訓練等は、地元消防団や自治会長の協力を得て行われる。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	体調を考慮し、利用者が希望される理美容室への外出支援を行っている。また、訪問美容師に依頼し、外出困難な方でも思い通りのヘアスタイルが実現できるよう援助を行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見人制度が必要と思われる利用者に、市職員と協力して利用できるようになったケースがある。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託契約を結んだ医療機関との連携を図り、異常時には状態を報告し、往診して頂いている。また、定期受診時は、送迎および付き添いを行い、診察を受けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	月に1,2回は、外来にて診察を受、けカウンセリングにより状態を確認して頂いている。薬物療法は継続して行っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	それぞれのかかりつけ医の看護職員や近所の医院の看護職員と連絡を密にし、日頃より利用者様の健康管理や状態変化に応じた支援をして頂いている。又、介護職員の記録をもとに確実な連携を行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	メディカルソーシャルワーカーへ退院患者様を受け入れる際の注意事項などを確認し、事業所内でも速やかな対応を心掛け、1日でも早く退院できるようにアプローチしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	緊急マニュアルを則り、重症化した際は十分な伝達申し送りを受ける。本人、家族の意向、かかりつけ医の指導を踏まえ介護方針を決定し、これを全員で共有している。終末期ケアについては、研修を実施し日々後悔のないケアを心掛けている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者が希望する事を最優先にし、外出なども出来る限り行う方向で支援している。医療処置が必要な時は、事前に全職員でどこまで出来るかを見極めて、出来ない事は主治医へ引き継ぐ。また、家族へ十分に説明し、利用者が望まれる終末の支援を心掛ける。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在の生活状況及び健康状態を書面で情報提供し、環境が変わっても穏やかな変わらない生活を送られるように支援できるように努めている。又、なじみの職員が顔を見せ、安心していただくようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人記録などの記録物は、ホーム外への持ち出しを禁止している。言葉には充分注意し、職員間でも指導体制を取っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者が気持ちを表出しやすい信頼関係をつくり、季節に合った衣類整理や欲しい物のお買い物等、入居者様が望まれる事を常に聴く姿勢を持つ。その上で、可能な限り、利用者が決めた事が実現できるよう支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者一人ひとりに温かな声掛けを行い、利用者の希望、ペースでその日を暮らすことができるよう努めている。なお、利用者の好きな事を取り入れたレクリエーションの実施、改善にも、工夫を凝らしている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>更衣の際、利用者に衣類を選んで頂き、その人らしいおしゃれが出来るよう心掛けています。また、利用者の希望に応じて、行きつけの美容院へお連れしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食材の人参、ジャガイモ等の皮むきを一緒に手伝って頂いたり、おやつ作りにも参加して頂き、利用者同士の交流の場や楽しみを持てるように支援している。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>喫煙されていた方には、時間と本数を決め、時間おきに喫煙されていた状況があったが、現在は禁煙中である。おやつなどは、個人の好みの物を準備したり、買い物に同行するなどして、日常的に楽しめるように支援している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンや時間帯を把握し、トイレ誘導している。自然排便が3日間ない場合は、下剤を服用し、排便を促している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調、気候等に考慮し、入浴を拒否される時には、強要せず、利用者の方の気分に応じて翌日に入って頂くように支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間は特に定めておらず、家庭での生活リズムが継続できるように入居者様の生活パターンでの入床時間を決めて頂いている。昼間も自室で自由に午睡できる環境を整えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や好きな事等を活かして 毎朝モップ掃除して下さる方、洗濯物をしてくださる方、食事の下ごしらえ(野菜の皮むきや筋取り)をして下さる方がおられる。体調を考慮し、生活の楽しみや気晴らしになるように支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内では、金銭の管理は事務所で一元化している。外出時には、利用者がお財布を持ち、買い物ができるよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、なるべく散歩に行き、地域の方々と交流したり、苗植えや花の水やり等を一緒に行っている。また、ドライブ、季節ごとの花の見学、外食、ショッピング等の計画を立てて外出している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	設立記念日前後で日帰り旅行を年に1回企画し、利用者ご家族の方々と共に外出する機会を作り支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を持っている方もいらっしゃる。電話は、日常的に使用できる状態であり、用事のある方は、職員が連絡を入れたりする事もある。家族から連絡があると本人につながり、またはご希望に応じて家族にお掛けしたり、楽しくお話をされている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ホームへの家族、知人などの出入りは自由であり、訪問時には、お茶を出したり、各居室やリビングで過してもらい、希望によっては、食事と一緒に取ることが出来る。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない事の重要性を理解し、ケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は出入口ドアの施錠はせず、夜間は(夜勤の職員が一人)、転倒転落事故を未然に防止する為、家族に了承を得て、(やむを得ず)施錠している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室で休まれている方以外は、リビングで過しておられる。利用者のそばでの記録や、対面式カウンターの台所からの見守りを常に行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品の保管場所を決めており、刃物など入居者に対して危険なものは、手の届かない所に保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人ひとりの健康状態や身体状況を把握し、事故防止に取り組んでいる。薬は、個人ごとに1日分の薬を準備し、職員が手渡しや与薬を行っている。また、消防署の方の指導のもとで火災訓練を行い、火災予防の向上に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時には、緊急時マニュアルに則り、対応している。職員会議では、研修、講習の報告やヒヤリハット対応策を職員全員で共有するよう努めている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の方に参加してもらい、火災避難訓練を行っている。日頃から地域の方々と交流を持ち、協力を得られる様に努めている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者の状態変化に応じて、家族等と話し合いを持ち、相互に確認し合い、その方らしい生活を送られる様に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝の健康チェックを欠かさず行い、常に表情や言動にも注意を払っている。体調変化がある場合は、日中、夜間帯での申し送りを確実に伝達するように努めている。また、緊急時はマニュアルに沿って対応し、連絡体制も整っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり1日分の薬を準備し、職員が手渡しや与薬をいしている。症状の変化があった場合には、主治医に連絡し、支持を仰いでいる。また、各人の服薬説明書があり、職員も必ず目を通し、服薬の理解に努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェックを確実にし、服薬調整を行っている。朝食時に牛乳を出したり、日中の散歩やレクリエーションにより身体を動かしたり、栄養士によるメニューづくりに摂食食材の工夫をしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後には、口腔ケアを行い、介助が必要な方には、仕上げ磨き等の援助を行い、清潔保持に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせて、食事の形態を考慮している。また、毎食毎に食事摂取量を確認し記録している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ホーム内をほぼ毎日、全箇所、次亜鉛酸ナトリウムを用いて消毒を行うと共に、外出から帰った後は必ず手洗いとうがいを行っている。感染症対策のマニュアル本を作成し、常に目が通せるように配置している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、包丁、布巾等は、殺菌、除菌して常に衛生さを保っている。食中毒予防の為に食器や調理器の天日干しを実施している。魚類に限ってだが、近所の鮮魚店にて、その日に使用する卸したての魚を届けてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にある花壇には、入居者様と一緒に育てている花がある。また、靴箱の上にも置物や花を飾り、親しみやすい環境作りを行っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、折り紙で季節ごとの風物を折り、飾っている。また、飼育しているめだかのえさやりを一緒に行っている。うちわ等も準備し、暑さをしのぐとともに昔懐かしさを感じて頂いている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間であるリビングの中にも個人の好きな場所がある。気の合った利用者同士で話せるように食事の際の座席順を工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、各自で家具を持ち込む事が出来る。施設内の行事での写真、思い出の品等を飾り、本人の居心地の良い空間を作っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室やリビング、トイレ、キッチンには換気扇があり、換気に努めている。温度調整は、利用者の体調に応じて、各居室のエアコンや扇風機等で行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレ等は自分で安全に移動が出来るように手摺りの設置がされている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者様にとって、「何がわかりにくいのか」「どうしたら自分でして下さるか」を追求し、状況に合わせた環境整備に努めている。例えば、「トイレ」と表示せず誰もがわかる「便所」と表記している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周りには洗濯物干し場があり、利用者とも洗濯物を干しに行ったり、取り込みに行ったりすることが出来る。また、玄関先の花壇には色とりどりの花が咲き、入居者や、近所の方がベンチに座り、楽しまれている。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・できる限り、家で過されている様なその人らしい生活を大切にしたいと常に思って支援させて頂いてます。その為に、一人ひとりの生活歴、趣味嗜好、ご家族の思いを大切に出来るようコミュニケーションを取っています。地元有喜町および近隣町からの入居者が9名中5名おられ、有喜の商店街にあるという土地柄、地域住民との交流も頻繁にあります。日中に散歩していると声を掛けて下さり、そこで井戸端会議が始まったり、歌を歌ったり、一緒におやつを頂いたりという関係が継続しています。こうした点からも、日頃より思っている「地域に開かれたグループホームづくり」が確実に身を結んでいるように思われます。囑託医との連携も強化し、急変時の対応も迅速に行って頂いています。今後も一人ひとりを大切に一日一日を大切に「人生色々あったけど、ここで安心して暮らせて良かった。」と心から思って頂ける様な介護を実践して行きたいと考えております。